

代表者名	代表取締役社長 若杉清一	所管部課名	産業経済労働部観光課
所在地	田沢湖町生保内字下高野73-2	設立年月日	昭和44年7月22日

【沿革及び県の出資理由】

昭和45年の国体を契機に田沢湖スキー場を開設するに当たり、スキー場の建設・運営に民間活力を活用すべきとして設立される。県の出資により、経営の安定化を支援する。

【出資者】(17年度当初)

(千円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	179,250	45.8
市町村	1	62,600	16.0
その他	84	149,875	38.3
計	86	391,725	100.0

【事業】

主たる業務

特殊索道事業(リフト)
旅館業(スキー場ロッジ)
飲食店、売店業(スキーハウス)

事業実績

(百万円、千人)

事業名等	14年度	15年度	16年度
スキー場入場者	139	137	128
売上高	413	398	360

16年度事業概要及び17年度事業計画・目標

平成16年度は、昨シーズンより3日遅い営業開始で1月以降雪に恵まれたものの週末に天候が荒れることが多かった。営業戦略としては、「もっとおいしいゲレンデpart2」をキャッチフレーズにお得なリフト券の新設やレストランメニューの充実、ゲレンデ整備等によりサービスの満足度向上に努めた。その結果、入場者数、売上高とも昨シーズンの90%余りとどまった。17年度は、スキー場リニューアルを見据えさらにサービス向上を図り誘客を促進するとともに、販管費の節減等に努め、経営・事業の一層の効率化を図ってきたい。

【組織】

運営機構



役員数

(人)

	取締役	監査役
常勤	1	
内、県OB		
非常勤	7	2
内、県OB		
内、県職員	2	
計	8	2
内、県関係者	2	0

職員数

(人)

正職員	12	正職員 平均年齢	47.8歳
内、県OB			
出向職員			
内、県職員			
臨時・嘱託		正職員 平均勤続年数	20.8年
内、県OB			
計	12		
内、県関係者	0		

【財務】

損益状況(16年度)

(千円)

	金額
経常収入 A	363,045
受託事業収入	30,179
補助金収入	
自主事業収入	330,022
運用益収入	
その他	2,844
経常支出 B	355,479
人件費	56,995
その他	298,484
経常損益 C = A - B	7,566
経常外収入	
経常外支出・諸税	16,655
当期損益	-9,089

(百万円)

県の損失補償額	県の債務保証額
---------	---------

財務状況(16年度末)

(千円、%)

	金額	構成比
流動資産	88,518	26.6
固定資産等	243,798	73.4
資産計	332,316	100.0
流動負債	5,256	1.6
短期借入金		0.0
固定負債		0.0
長期借入金		0.0
引当金等		0.0
負債計	5,256	1.6
資本金	391,725	117.9
剰余金等	-64,665	(19.5)
資本計	327,060	98.4
負債・資本計	332,316	100.0

(千円 %)

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
	67,634	0	0.0%

【県の財政支出】

(千円)

	14年度	15年度	16年度	支出目的・対象事業概要等
補助金				
委託費	8,046	8,325	7,943	秋田県田沢湖高原駐車場保守業務(観光課)及び秋田駒ヶ岳マイカー規制車両誘導業務(自然保護課)
貸付残高				

1 主な経営指標

項目		単位	14年度	15年度	16年度	14-15増減	15-16増減
健全性	自己資本比率	%	94.67	98.67	98.42	4.00	0.25
	借入金依存率	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流動比率	%	241.12	1,584.06	1,684.13	1,342.93	100.08
収益性	剰余金（欠損金）	千円	246,777	219,376	228,464	27,401	9,088
	経常利益率	%	1.00	6.99	2.08	5.99	4.91
	総資本利益率	%	1.30	8.30	2.28	7.00	6.03
発展性	経常収入額	千円	425,077	404,586	363,045	20,491	41,541
効率性	総資本回転率		1.30	1.19	1.09	0.12	0.10
	職員1人当たり経常収入	千円	23,615	25,287	30,254	1,671	4,967
	人件費比率	%	22.94	14.91	16.80	8.03	1.89

2 経営目標の達成状況

経営目標			14年度	15年度	16年度	17年度
経営改善指標	営業利益（千円）	目標		10,000	15,000	20,000
		実績	6,563	22,279	4,866	
経営改善指標	販売管理費比率（%）	目標		83	82	81
		実績	88	81	85	
事業成果指標	入場者数（千人）	目標		145	150	150
		実績	139	137	128	
事業成果指標	売上高（千円）	目標		435,000	450,000	450,000
		実績	413,143	398,212	360,199	

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

入り込み数は、営業開始が昨シーズンより3日遅く1月以降は雪に恵まれたものの週末に天候が荒れることが多かったこともあり、対前年比減（93.2%）になりました。リフト収入でも、ゲレンデの多様化や整備の充実などに努めましたが、対前年比減（94.3%）になりました。一方、営業面で、お得なリフト券の新設やレストランメニューの充実などサービスの満足度向上に努めたほか、仕入原価の見直し等による販管費の削減など経営の一層の効率化に努めた結果、営業利益においては、黒字とすることができました。

引き続き「サービス売る産業」として、スキー場リニューアルを見据えた早期の宣伝展開や県内客の誘客促進等の営業宣伝活動の強化、レストランメニューの充実やゲレンデの改善など、サービスの満足度向上に努めるとともに、販管費の節減等に努め、経営・事業の一層の効率化を図っていきたい。また、スポーツセンターや地域の関係者と連携した取り組みを進めることなどにより、一層の誘客促進を図ることが課題です。

4 総合評価

概ね安定した経営内容	←層の努力を要する経営内容
<p>入場者数及び売上高の減少傾向が拡大化している中での経常利益の確保は評価できる。今後は、縮小均衡に陥らないためにも、顧客ニーズを的確にとらえて売上増加を図る必要がある。</p>	